

第5回 金融EDIにおける商流情報等のあり方検討会議 資料

# 金融・ITネットワークシステム に係る検討状況について

平成29年3月2日

一般社団法人 全国銀行協会

## 1. 金融・ITネットワークシステムの構築スケジュール

- 平成28年12月、全国銀行協会（以下「全銀協」という。）の理事会において、金融・ITネットワークシステム（以下「新システム」という。）の構築を決定（別紙を全銀協のWebサイトに掲載）。
- 現在、新システムの運営主体である一般社団法人 全国銀行資金決済ネットワーク（全銀ネット）において、新システム構築に向けた具体的な検討を進めている。
- XML電文への移行、金融EDIの活用に向け、官と民、産業界と金融界が連携して、周知活動に取り組み、わが国の商取引情報および決済情報のシームレスな連携を実現するIT社会の基盤として新システムが定着するよう取り組んでいく。

### 新システム稼働までのスケジュール

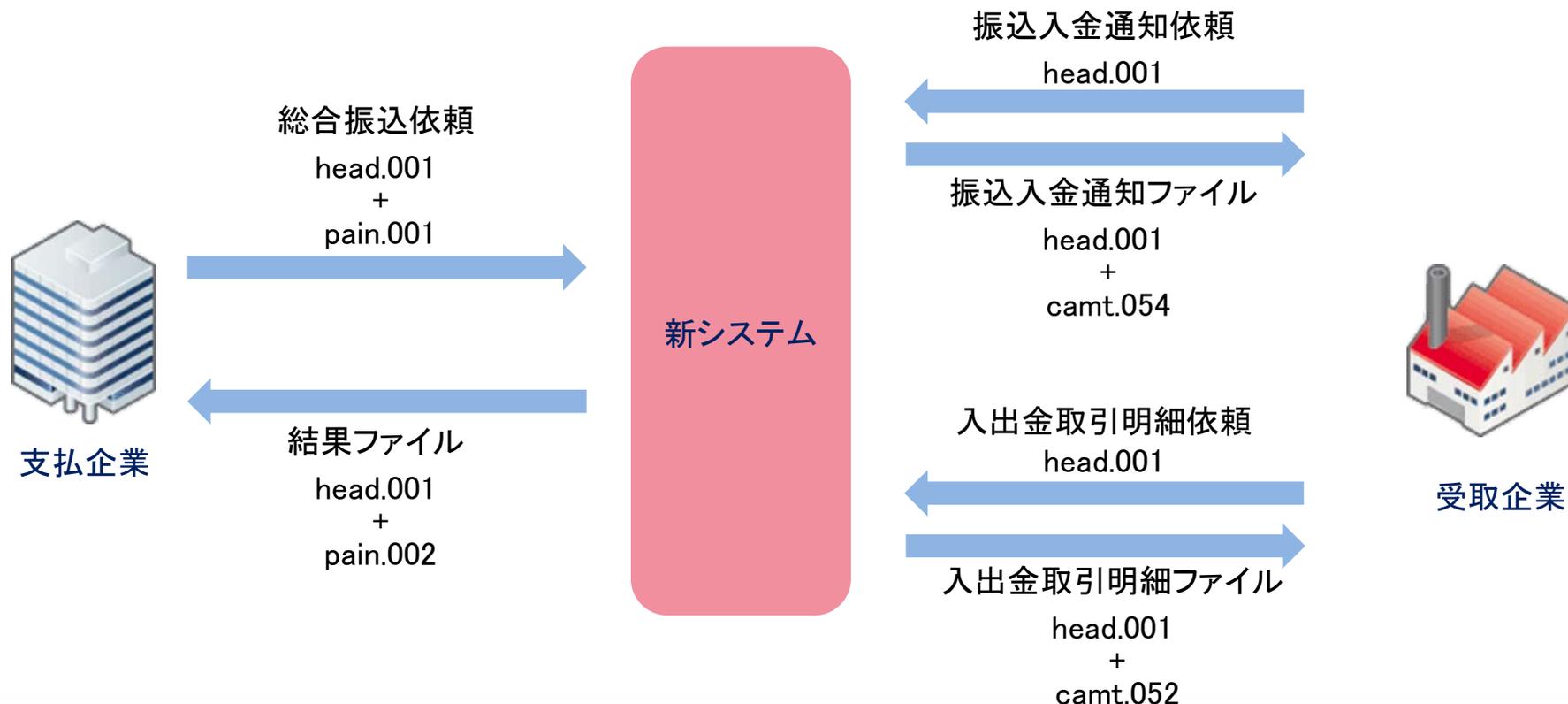


## 2. 企業-新システム間の通信

【ネットワーク】 インターネット または IP-VPN網

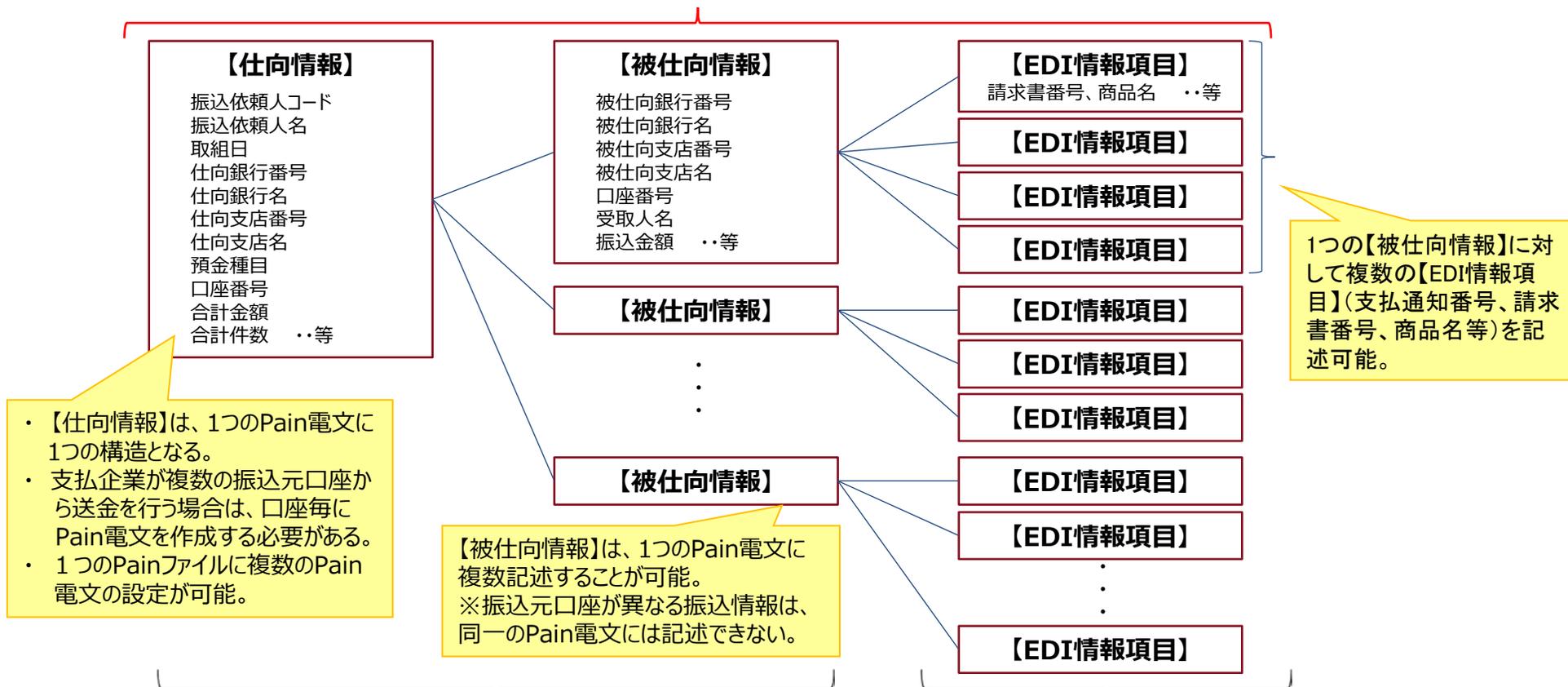
【プロトコル】 JX手順を中心に検討中

【XMLファイル】 ISO20022 pain、camt



### 3. 企業-新システム間のXMLファイルフォーマット(総合振込 Pain電文イメージ)

これら全体で1つのPain電文



・ 【仕向情報】は、1つのPain電文に1つの構造となる。  
 ・ 支払企業が複数の振込元口座から送金を行う場合は、口座毎にPain電文を作成する必要がある。  
 ・ 1つのPainファイルに複数のPain電文の設定が可能。

【被仕向情報】は、1つのPain電文に複数記述することが可能。  
 ※振込元口座が異なる振込情報は、同一のPain電文には記述できない。

全銀協制定のレコード・フォーマットがベース

金融EDIにおける商流情報等のあり方検討会議  
 「金融EDI情報として格納すべき商流情報」  
 などにもとづき、各企業が設定可能な領域

## 4. XMLファイルへの商流情報の設定方法



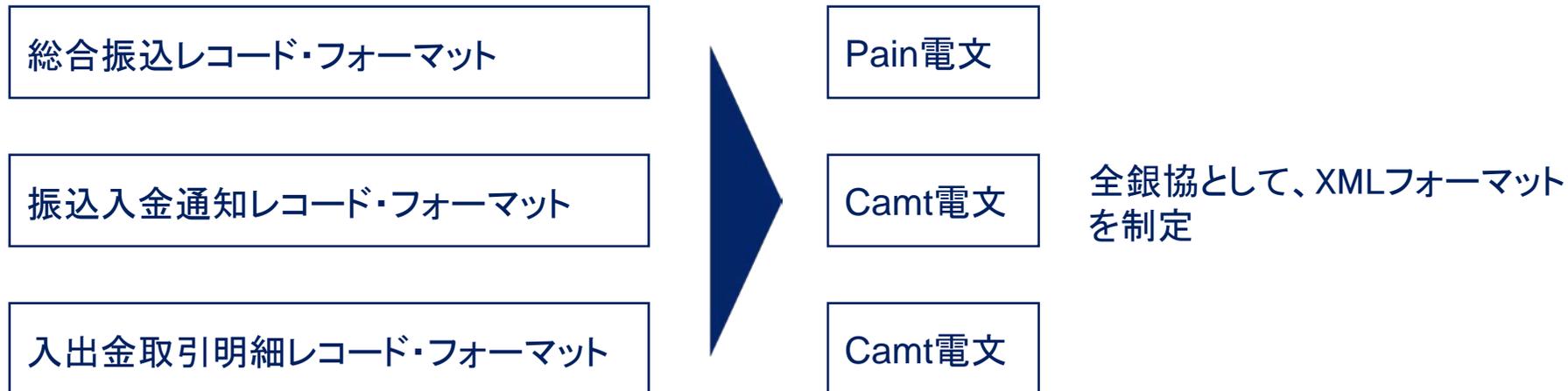
※Base64は、インターネット技術を策定する組織であるIETF(Internet Engineering Task Force)のRFC(Request For Comment)で定められている。Base64は76文字ごとに改行されるため、改行ごとに「Unstructured」タグを設定する。

※エンコードには、受取企業がデコードの可否を判断できるようにヘッダ情報(MIME)を付加する。

### 企業側クライアントソフトの動作イメージ (総合振込の場合)

- ① EDI情報項目(商流情報)のXML化
- ② (必要に応じて)XML化されたEDI情報行項目(商流情報)のエンコード(Base64)
- ③ 総合振込ファイル(pain.001)の作成  
(振込情報+EDI情報項目(商流情報))[(必要に応じて)MIMEヘッダ付与]
- ④ 新システムへpain.001を送信

## 5. XML電文に対応したレコード・フォーマットの策定について



全銀協内のレコードフォーマット等検討部会において検討を行い、本年夏頃を目途に、XML電文に対応したレコード・フォーマットを策定し、全銀協ウェブサイトにおいて公表予定。



一般社団法人

全国銀行協会